

リベラルアーツ学科

カリキュラムの特徴

リベラルアーツ学部は、4年間で3期、導入期（1年次）・発展期（2年次）・専攻期（3年次以上）と位置づけ、それぞれの目標である構想力・実践力・推進力の育成を実現させることができるよう、科目を配置しています。

- (1) すべての科目において、特に「言語・表現活動の充実」を基盤とし、「読む・書く・話す（発表する）・聞く」の4つのスキルを充実できるよう配慮しています。
- (2) 導入期では日本語・英語のコミュニケーション力・情報リテラシー、プレゼンテーションスキルなどの基礎力育成に特に力点を置き、さらには各専攻の入門科目を学ぶことで、多角的な視点から問題を追究する基礎力を養うことを目標としています。各自が専攻しようとする分野だけではなく、学際的に学ぶことで、幅広い研究の視点を養い、その中から各自の専攻分野を選択していきます。
- (3) 発展期では各自が決定した専攻（メジャー）の専門的な研究方法の入門・演習科目を複数の分野において学びます。実験・実習、フィールドワークや調査研究などさまざまな学びのスタイルを通して自らの課題に取り組み、各自の専攻分野の基礎を体系的に学びます。学外での実践を行うオフキャンパス・スタディーズ科目も開始されます。
- (4) 専攻期では少人数で行われるプロジェクトセミナーを中心に、学生が主体的に研究方法を培い、問題の発見、課題の解決、思考力を高めます。各自の専攻分野における専門科目と共に研究を深めていきます。
- (5) 卒業年次においては、各自の学習成果を社会に資するために、プロジェクト（卒業論文・卒業プロジェクト）に取り組み、各自の専攻分野において身につけたさまざまな力を活用し、研究成果をまとめ、発表します。
- (6) 4年間を通じて、多分野からひとつのテーマを考える講座（ブリッジ講座）を開講し、社会の最先端研究者や、実務者、専門家らの講義も含め、多角的に問題をみる視点を養うプログラムを提供します。
- (7) グローバルな社会に対応できるように、2言語（日本語・英語）で各自の専攻分野を論じる講座（Introduction to LA Education）を開講し、各自の専攻においても語学力を高めるプログラムを提供します。

1 専攻（メジャー）

基礎となる科目を学習した後、各自の目標にしたがって専攻（メジャー）を決定します。メジャーごとに指定された履修プログラムにより学習を進めます。ダブル専攻も可能です。

- (1) メジャーの登録
1年次7月（仮登録）→ 2年次7月（正式登録）→ 2年次1月（変更最終）→
3年次4月（最終決定）※以後変更はできません
- (2) 専攻（メジャー）の概要
 - ① 言語と教育

文化的歴史的背景をふまえた広い視野に立ち、多方面からの的確な情報収集能力かつ問題解決能力をもって、言語活用、教育、コミュニケーション力に長けた国際感覚の豊かな

人材を育成します

【日本語コミュニケーションメジャー】においては、(ア)中学校・高等学校の国語教員、(イ)日本語教師、(ウ)その他ビジネスの3方面において中核をなす人材の育成を目指します。

【英語コミュニケーションメジャー】においては、英語における文法、4技能を習得し(ア)中学校・高等学校の英語教員、(イ)小学校英語指導者資格取得者、(ウ)その他ビジネスの3方面において中核をなす人材の育成を目指します。

② 社会と文化

日本国内外を問わず、文化的歴史的背景をふまえ、現代の社会に関心を抱き、広い視野のもと、表現力、発信力に長けた国際感覚の豊かな人材を育成します。

【日本学メジャー】においては、広く日本の文化や歴史を理解し、自身の得た知識を国内外に正しく発信できる人材を育成します。

【芸術表現メジャー】においては、芸術の享受と実践を通して的確な理解力と表現力に長けた人材の育成を目指します。

【社会学メジャー】においては、多角的分野に対して批判的に考察し、社会の構成員としての当事者意識と責任感のもと、社会に対して主体的に関わる人材の育成を目指します。

③ 科学と技術

科学的根拠に基づいた広い視野に立ち、問題解決能力、データの数量的・統計的分析・処理能力に長け、科学的・実証的研究方法、情報技術を駆使し、積極的に情報発信できる人材を育成します。

【心理行動科学メジャー】においては、人間の心理と行動に深く関心を抱き、正しい情報の選択と解釈する能力をもち、教育や発達を支援し社会的問題を解決すること、自他の心身の健康を促進しwell-beingを高める能力をもつことのできる人材の育成を目指します。

【科学技術コミュニケーションメジャー】においては、現代の科学や技術に深く関心を抱き、自らが未知の問題に対して、検証する能力、多角的分野に対して科学的・合理的に考察し、判断する能力をもつ人材の育成を目指します。

2 オフキャンパス・スタディーズ

キャンパス外のさまざまな現場で実践的に学ぶことを奨励します。

各自が企画する個人プログラムと学部が提供するプログラムがあります。

オフキャンパス・スタディーズの単位認定に関する規定

(1) 対象科目

「フィールドワークA～C」「学外実践実習A～C」「海外特殊研究A～C」

「インターンシップA～C」「日本語教育実習A・B」「キャリア実践実習A・B」

(2) 受講条件

進度チェック、学習継続条件に抵触していないこと

- (3) 事前登録手続き
 セメスター初めに行われるガイダンスに出席する
 教務担当教員に履修申込書を提出する
 教務担当者会、主任会、教授会で審議のうえ 履修を許可される
 (実習) 原則として45時間を1単位とし実習を行う
- (4) 単位認定
 実習終了後次セメスターの履修登録期間に該当する科目を履修登録する
 報告書を提出するとともに報告会を開催する
 教務担当者会において最終単位認定審査を行う
 主任会・教授会の承認を経て単位認定する

卒業要件

- ① コア科目のうち、全人教育・FYE科目群9単位を修得していること。
- ② コア科目のうち、言語表現科目群・社会文化科目群・自然科学科目群・総合科目群の各科目群から4単位以上を含み、24単位以上(上限32単位まで)を修得していること。
- ③ リベラルアーツ学科科目群のうち、導入科目群必修科目26単位、発展科目群必修科目2単位、専攻科目群必修科目10単位を修得していること。
- ④ 各専攻メジャー履修プログラムの指定された科目を含み、導入科目群の選択科目から6単位以上、発展科目群選択科目から10単位以上、専攻科目群選択科目から10単位以上を修得していること。
- ⑤ 上記要件をすべて満たし、124単位以上を修得していること。
- ⑥ 卒業見込セメスターにおいて、プロジェクトを履修し、各自の研究成果をまとめて提出し、発表も含めて、卒業プロジェクトの審査に合格すること。
- ⑦ リベラルアーツ学科専門科目群における累積GPAが2.00以上であること。

卒業までの単位配分

リベラルアーツ学科を卒業するためには、大学で規定する卒業に必要な総単位124単位を修得しなければなりません。

科目群	科目分類	必要単位	備考
コア科目群	全人教育・FYE科目群	9単位	
	言語表現科目群 社会文化科目群 自然科学科目群 総合科目群	24単位以上32単位まで (4単位以上) (4単位以上) (4単位以上) (4単位以上)	
導入科目群	必修 選択 必選	26単位 6単位以上	※教職履修者 選択6単位以上
発展科目群	必修 選択 必選	2単位 10単位以上	
専攻科目群	必修 選択 必選	10単位 10単位以上	※教職履修者 選択8単位以上
関連科目群 教職関連科目群 他学部開講科目 単位互換科目	自由選択	任意	
卒業に必要な単位数		124単位以上	

「ブリッジ講座A」または
「Introduction to LA Education A」
より2単位

教育課程表(P156-157)
「English Grammar」～「民俗学研
究」より10単位(教職6単位)以上

(注意) 教職課程履修者は、別(備考)に定める単位配分での履修になります。

履修上の留意事項

「プロジェクトセミナーⅠ」「プロジェクトセミナーⅡ」「プロジェクトセミナーⅢ」「プロジェクトセミナーⅣ」は、この順で履修しなければなりません。

C評価の再履修

リベラルアーツ学科の専門科目群内の科目がC評価の場合、同じ科目を次semester以降に再履修することが可能です。再履修によってB評価以上を獲得できた場合は、評価が上書きされ、GPAも変わります。ただし、再履修科目であっても、semesterの履修上限20単位を超えることはできません。コア科目群は対象外です。

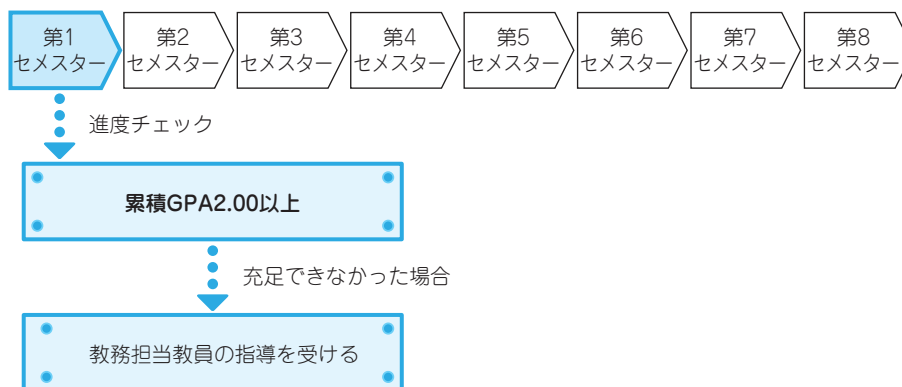
再履修を希望する場合は、「C評価科目再履修願」に必要事項を記入し、教務担当教員の許可を得た上で提出してください。提出日等の詳細については、掲示等で確認してください。

履修登録科目の取り消し

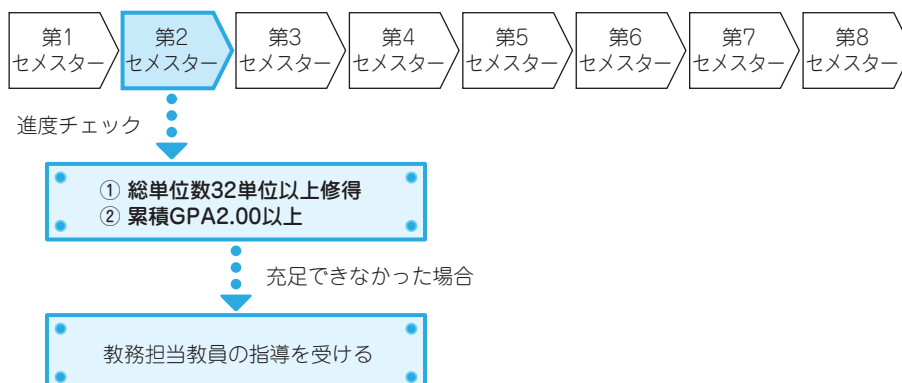
リベラルアーツ学科の専門科目群内の科目に限り、学期の途中で履修を取り消しできる期間を設定しています。卒業要件に専門科目の累積GPA2.00以上が含まれていますので、C評価やF評価（不合格）になる可能性の高い科目の履修をこの期間に取り消すことができます。ただし、取り消しにより履修条件に抵触する可能性がありますので、取り消しにあたっては充分確認の上、手続きを行ってください。取り消し期間は掲示等で確認してください。

履修条件

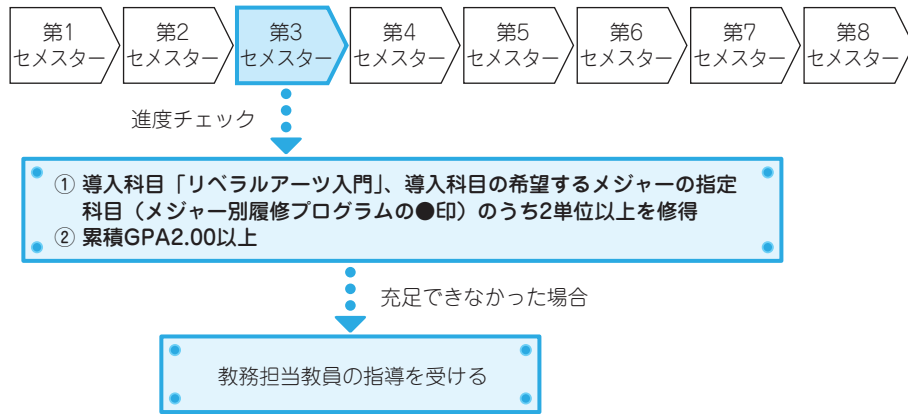
1 第1semester（1年次春）終了時における進捗チェック



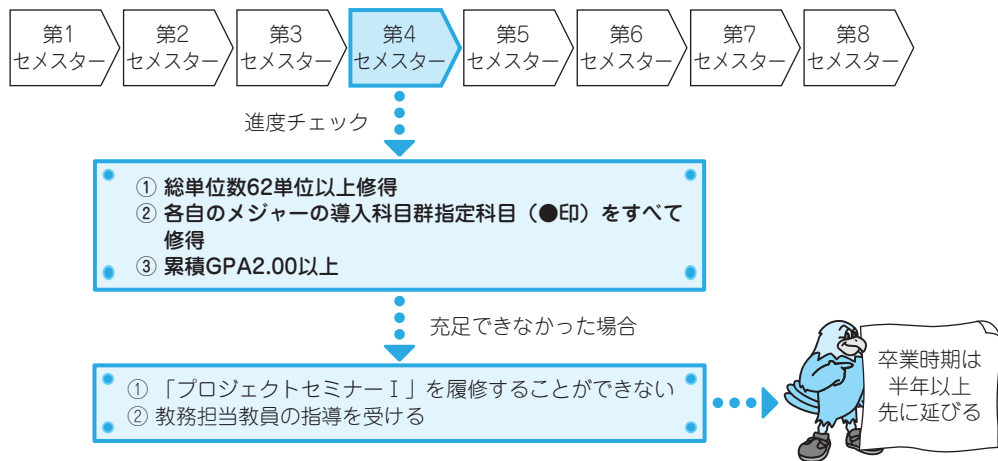
2 第2semester（1年次秋）終了時における進捗チェック



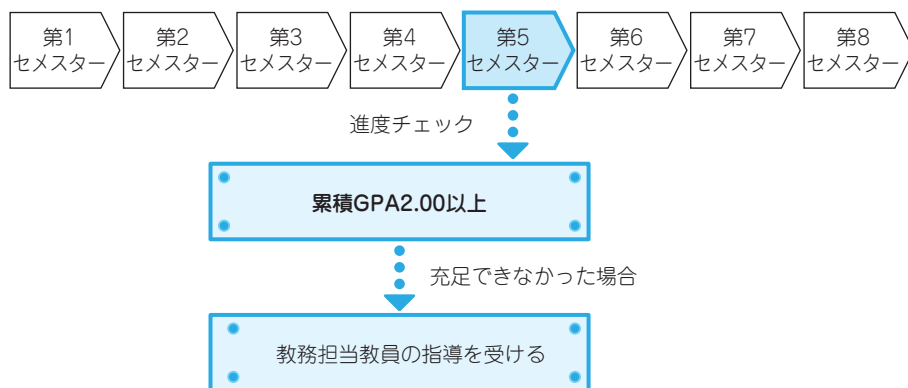
3 第3セメスター（2年次春）終了時における進捗チェック



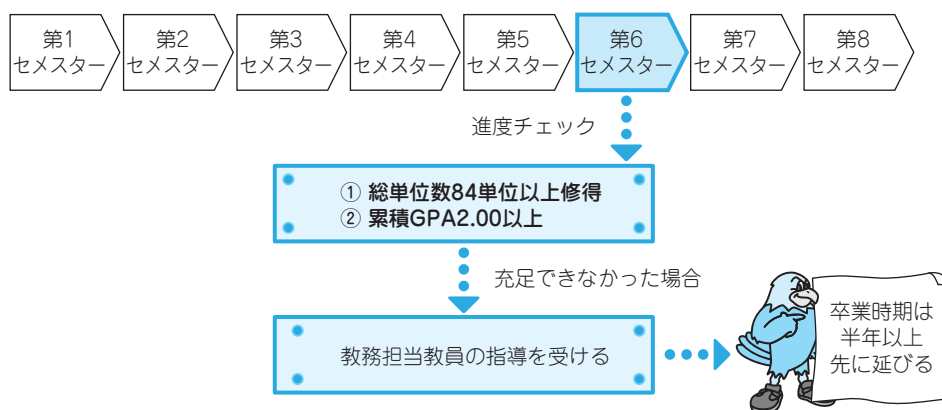
4 第4セメスター（2年次秋）終了時における進捗チェック



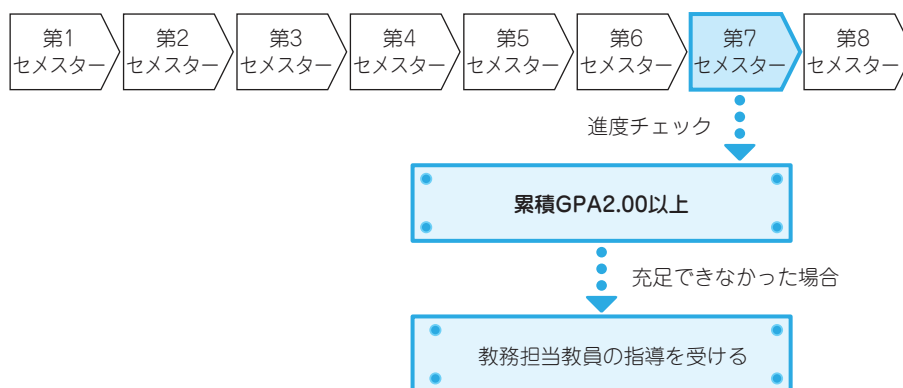
5 第5セメスター（3年次春）終了時における進捗チェック



6 第6セメスター（3年次秋）終了時における進捗チェック



7 第7セメスター（4年次春）終了時における進捗チェック



教職課程受講条件

受講許可条件	第2セメスター終了時	累積GPAが2.40以上であること
継続許可条件	第4セメスター終了時	累積GPAが2.40以上であること
	第6セメスター終了時	① 教育実習事前指導が合格していること ② 「教師論」「教育の原理」「人間の発達と学習」「国語科指導法Ⅰ・Ⅱ」もしくは「英語科指導法Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。

*ダブル免許プログラムは『教職課程受講ガイド』p.9～10を参照すること。

*長期留学に参加した場合は、4年間での教育職員免許状の取得が困難となる場合があります。参加にあたっては必ず事前に相談してください。

資格

各資格修得のための履修要件は、別途定めます（176～177、189～191ページを参照すること）

- *日本語教員
- *小学校英語指導者（J-SHINE）
- *社会調査士
- *認定心理士